

郡市	任校	氏名	勤務先	研究実践の教科	学年	取組の視点や方向性	大まかな実践の予定
上越	末広小	柳澤京子	上越市立末広小学校	国語	2年	<p>【つけたい力】 経験したことや観察したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文章を書く力</p> <p>【取組の方向性】 ・視写や音読による学力実態の把握 ・短作文、体験文、毎日日記、ミニ論文などの取組 ・説明文の学習と文章構成の学習との連動</p> <p>【目指す児童像】 対象を様々な観点から丁寧に観察し、くわしい観察文を書くことができる。</p>	<p>1 単元名 「かんさつ名人になろう」 (6月)</p> <p>2 単元の目標 ・丁寧に観察し、気付いたことや分かったことを集めることができる。 ・知らせたいことが相手に伝わるように、工夫して書くことができる。</p> <p>3 展開の構想 観察の観点に限られた短い観察記録文と、様々な観点からくわしく書かれた観察記録文とを比較することにより、くわしい観察記録文を書くためには様々な観点が必要であることを理解させる。 観察する観点をはっきりと示すことにより、何をどのように書いたらよいか分からない児童が自信をもって書くための手立てとする。</p>
上越	宝田小	山岸英昭	上越市立宝田小学校	算数科	6年	<p>【テーマ】 比の特徴や関係性の面白さなど、比の見方・考え方を広げる授業 ～第6学年「比」の活用～</p> <p>【テーマ設定の意図】 H26年度県小教研学習指導改善調査5年生の「割合」問題の正答率は43%であった。定価2,400円の20%引きの代金を求める問題で、出題者が求める段階を踏んだ計算をせず、$2,400円 \times (1 - 0.2)$ で計算してしまう誤答が多く見られた。これは「もとにする量」と「くらべられる量」「割合」の意味理解がまだ定着していないことが原因である。また「もとにする量 \times 割合 = くらべられる量」といった「手法」ばかりに頼る子どもたちは、こういった難易度のある課題にぶつかった時、誤った考えに至るか、考えがとまってしまう傾向にある。そこで、第6学年では算数の「本質」にふれる楽しさを味わう授業を目指し本テーマを設定した。「問い」をもとに、論理的思考力を発揮しながら「比」の「本質」である特徴や関係性の面白さに気付かせていきたい。</p> <p>【身に付けさせたい考える力】 ○比の本質に気付く力 ○既習事項を活用する力、演繹的な思考力 ○条件を広げて考える力、拡張・発展させて考える力</p> <p>【考える力を育てるための方向性(単元を通して)】 ①線分図\leftrightarrow比\leftrightarrow式の思考を多く取り入れ、比のイメージをもたせる。「へんしーん」「かんたーん」「のびーる」「ちぢーむ」「分けーる」「つなげーる」 ②身の回りの事象を比という窓からみていく活動を取り入れる。「5倍希釈」「黄金比・白銀比」「測量」 ③等しい比や比例配分の考えを活用しながら連比の問題を解く。</p>	<p>1 実践時期 11月</p> <p>2 単元名 「比」の活用</p> <p>3 具体的方策(本時) ・比の特徴や関係性の面白さなど、「比」の見方・考え方を広げる「連比」の課題を提示する。 ・ホワイトボードによる視覚化やペアトーク、展覧会による再現活動など、共有の場を工夫する。 ・「もし、4人だったら～」 「もし、比を1.5:1にしたら～」など、発展的な学習の場を設定する。</p>
柏崎・刈羽	鯖石小	小瀬雄一	柏崎市立鯖石小学校	国語	6	<p>1 目指す子どもの姿 「自分の思いを効果的に伝えるために書き方を工夫し、表現を高めていく子ども」 国語科書くことの領域では、「どのように書くとよいか？」と書き方について考える力を育みたい。それは、作業的な学習では育めるものではない。「伝えたい」という思いをもち、書き方の工夫(学習内容)について深く思考していく学習を通して育まれるものだと考える。</p> <p>2 目指す子どもの姿に迫るために大切にしている学習過程 (1) 表現対象(題材)に浸りながら、思いを膨らませていく。 (2) 書き表す事柄を蓄積し、既習の書き方を活用しながら表現していく。 (3) 追求を進める中で自らの表現の不十分さを自覚し、書き方に問いをもつ。 (4) 教材文を手掛かりにして仲間と話し合い、書き方の工夫(学習内容)を明らかにしていく。 (5) 自らの表現に取り入れるべき視点を明確にして、表現を高めていく。 (6) 思いを伝えることで達成感を持ち、表現の高まりを自覚する。</p> <p>3 授業改善の方向性 これまでの実践を通して、上記のような学習過程を踏むことで求める子どもの姿に迫っていくことや、各過程において大切な教師の働き掛けが見えてきた。 しかし、(5)「自らの表現に取り入れるべき視点を明確にして表現を高めていく」過程において、追求が停滞する様相も見られた。これは、(4)「教材文を手掛かりにして仲話し合い、書き方の工夫(学習内容)を明らかにしていく」過程において、「この工夫を取り入れるとよさそうだ。」という見通しはあっても、「この工夫を取り入れるよさは何か？」という効果の吟味が不十分だったことに起因する。「この工夫を取り入れると、こういう効果が得られそうだ。だから、この工夫を取り入れて書いてみたい。」と考えを深めながら、(5)の過程に向かって鋭く追求していく姿を具現したい。 以上のことから、本研究では(4)「教材文を手掛かりにして仲間と話し合い、書き方の工夫(学習内容)を明らかにしていく」過程に掉さし、その効果を十分に吟味しながら問題解決を図る子どもの様相や、その状況を生み出す教師の働き掛けを検証する。</p>	<p>1 実践時期 11月から12月ごろ</p> <p>2 実践単元 「伝えよう！ 私たちの鯖石未来予想図(仮)」</p> <p>3 単元のねらい(仮) 説得力を高めるためには客観的な事実(知識、体験、調べて分かったこと)を根拠にして述べるとよいことを理解し、自分の思いがより効果的に伝わる意見文を書くことができる。</p> <p>4 授業改善の具体的な方策 「自分の思いを効果的に伝えるためには、このままでは不十分だ。」と自らの表現に不十分さを感じてきた子どもは、書き方の工夫(学習内容)に問いをもってくる。そのような状況で次の2つの手立てを講じる。 ①解決の手掛かりとなる教材文を提示し、仲間と話し合う活動を組織する。話し合いの中で気付いたことは教材文に書き込ませる。(思考の可視化) ②問題を解決するために必要な「書き方の工夫」について学級全体で共有し、その効果について考えさせる発問をする。(思考の深まり)</p> <p>5 評価 実践を通して、育みたい「考える力」をどの程度高めることができたのかを検証する。(児童の学びの様子、文章から)</p>

柏崎・刈羽	高柳小	増井 貴	柏崎市立高柳小学校	算数	<p>【取組の視点】 学力差がみられる、問題、図・式とその説明に関連付けができない。少人数であること、ICTを継続的に使える。この実態を意識して授業改善を進める。</p> <p>【取組の方向性】 ・操作活動を中心とした算数的活動を重視し、概念形成が実感を伴って図られるようにする。 ・自力解決の方法を互いに説明し合う場面を設定し、図・式のもつ意味を言語化して伝える活動を継続実施する。</p>	<p>6月：図形の角(三角形、四角形→多角形の内角の和の求め方) 7月：高さ比べ(小数倍になることの意味) 9月：倍数と約数(公倍数、公約数の意味と求め方) 10月：体積(直方体を組み合わせた体積の求め方) 11月：図形の面積(平行四辺形の面積の求め方→三角形、台形、ひし形の求め方) 1月：正多角形と円(円周と直径の関係を考える) これらの単元で操作活動や説明する活動を取り入れていく。</p>
糸魚川	糸魚川小	渡邊 興勝	糸魚川市立糸魚川小学校	国語	<p>本校では、指導の手立てを指導内容、単元構想、学習活動、習熟・発展の4つの観点から考察し、全学級で共有する指導プランを「糸小プラン」と名付け、読みの観点を習得・活用する授業を試みてきた。今年度は「対話活動」を中心に糸小プランの授業を進化させることを主な取組とする。</p> <p>本校の高学年の重点目標は「クライマックス場面における中心人物の変化について考えたり、物語の主題について考えたりしながら、作品全体をまとめることができる。」である。一人一人の読み取りをもとに、対話活動を通して読みを深め、作品の心(主題)をまとめることを通し、文学作品を読む力を高めていきたい。そのための実践の観点は次の3つである。</p> <p>(1)課題設定と発問 (2)本時における対話活動の意図 (3)ねらいに迫るための具体的な手立て</p>	<p>〔実践1〕 1 単元名 物語に込めた作者の思いを受け取ろう 「注文の多い料理店」7月 2 ねらい 叙述に即して中心人物の様子や変化を読み取ることができる。</p> <p>〔実践2〕 1 単元名 「作品の心」をまとめ、交流しよう 「大造じいさんとガン」9月 2 ねらい 作品の主題(作品の心)について、自分の考えをまとめることができる。</p> <p>※実践1, 2ともに、クライマックス場面での中心人物の変化の読み取りを通して、作品が自分に訴えてきたことを「作品の心」として一人一人がまとめる学習を重視する。叙述を根拠にまとめる学習を通して、文学作品読解における考える力の育成を図る。</p>
妙高	新井南小	近藤克彦	妙高市立新井南小学校	社会	<p>【目指す子どもの姿】 ・社会的事象を進んで多面的に考えたり、表現したりする。 ・2つ以上の社会的事象を比較・関連付け・総合して伝え合う。</p> <p>【取組の方向性】 ・副読本や市の情報を活用し、児童にとって必要感があり問題意識が高まるような統計資料を提示する。 ・問題追及場面において、見学・調査活動だけでなく、地図、年表、新聞、紙芝居など多様な体験・体感活動を仕組む。 ・子ども達が社会的事象を実感でき、進んで考えるサイクルが生まれる指導過程の工夫を試みる。</p>	<p>1 単元名 「ごみの処理と利用」 2 ねらい ・統計資料から読み取った様々な情報を活用し、ごみの処理と利用についての現状や問題点をとらえ、その対策や人々の働きについて考え、表現することができる。 3 具体的方策 ①児童の問題意識を高める統計資料の提示と活用 ②社会科における体験・体感活動の場の設定 ③体験・体感活動が生かされる指導過程の工夫</p>
長岡・三島	上組小	中村 周	長岡市立上組小学校	国語	<p>1 単元名「読書紹介ポスターを作ろう」 ～きつねの窓(学校図書 下巻)より～</p> <p>2 取組の視点 以下の3点を付けたい力として実践する ・本文を引用したり、魅力的なコピーを使ったりしながら、自分の考えを伝えられるようにする。 ・文学的文章に登場する「ひと」「もの」を意識しながら読み、登場人物の相互関係について自分の考えをまとめる。 ・文学的文章を自分の体験やほかの作品と関わらせて読む。</p> <p>3 単元構想 ①これまでに読んだ文学的文章について話し合う。 ②きつねの窓に対する自分の思いを交流しながら、「きつねの窓」がどのような役割を果たしているか考えていく。 ③これまでに読んだ重要な「もの」が登場する文学的文章を再読する。 ④ポスターを互いに見合い、魅力的なポスターについて話し合う。</p>	<p>7～11月 朝読書の時間に重要な「もの」が登場する本を薦め、児童が読めるようにする。</p> <p>11月～12月 前述の実践を行う。</p>

長岡・三島	上川西小	樋口 大輔	長岡市立上川西小学校	国語	1年生	<p>1 目指す子どもの姿 読み手へのをもち、音読の仕方を工夫しながら、進んで読み、聞き、話す子ども</p> <p>2 育てたい「考える力」のとらえ ○「設定」や「場面」「登場人物」など、物語の学習で学んだ観点を生かして、場面の様子や登場人物の行動を想像しながら読む力 ○読み取ったことをもとに「声の大きさ」「読む速さ」「間の取り方」などを工夫して、音声や動作で表現する力</p> <p>3 取組の方向性 ○単元の導入時において子どもの目的意識・相手意識を高める資料提示・読み聞かせなど、教材との出会いを工夫することで、子どもの学習意欲を高める。 ○読みの観点(例:場面、登場人物、物語の設定、くりかえし、変化、変容 等)を用いて物語の内容を読み取ったり、説明したりする学習活動を積み上げる。 ○時・場所・登場人物の行動などの叙述に即して場面の様子を読み取り、読み深める活動や、読み広げる活動を行う。</p>	<p>1 実践時期・教材 9月「くじらぐも」</p> <p>2 実践単元・教材 「声に出して読みたい 若草っ子 ～音読で表現しよう～」</p> <p>3 指導方法の工夫の視点 ①単元構成の工夫 読み手(教師や地域の方)の読み聞かせを聞き、子ども自身が「このように物語を読めるようになりたい」と活動への意欲を高める導入を工夫する。 ②音読の観点を獲得 子どもが目指す読み手の姿に近づくために、音読の観点を獲得する学習活動を位置づける。音読の観点とは「声の大きさ」「読む速さ」「間の取り方」「読む人数」等の技能を指す。 ③子どもの音読が地域の方から評価される場の設定 単元の終末で、子どもが音読表現したものを、地域の方や保護者の方から評価してもらう活動を設定する。</p> <p>4 実践の評価 実践で使用したノート・ワークシートの記述や音読の音声に、とらえた「考える力」が表れているかを分析・評価する。</p>
長岡・三島	新町小	松井 衛	長岡市立新町小学校	算数	5	<p>【目指す子どもの姿】 ・能動的に学習課題に取り組むことができる。 ・自分の考えをもち、表現することができる。</p> <p>【取組の方向性】 ・児童が課題意識を高めるように問題や教材を提示し、学習課題を設定する。 ・図や教材を活用し、視覚的に理解を促す。 ・数学的思考を促す学習展開をする。</p>	<p>1 単元名 「図形の角」 7月</p> <p>2 ねらい 図形についての観察や構成などの活動を通して、図形の性質を見いだし、平面図形についての理解を深める。</p> <p>3 具体的方策 ・課題設定 児童が課題意識をもって図形の性質を見いだしていくように、課題設定を工夫する。 ・算数的活動 児童が能動的に思考・活動するように、図形の操作活動や創作・作図などを学習過程に位置付け、図形の性質に対する児童の気付きを促す。 ・再考の場の設定 図形の性質について気付いたことが一般的なものか特殊なものか、再考する場を設定する。</p>
長岡・三島	出雲崎小	児玉 洋平	出雲崎町立出雲崎小学校	算数科	5	<p>子供の考えをつなぐ授業を行うことで、「考える力」を育てていきたい。そのために、以下の2点を授業づくりの視点として設定する。</p> <p>①考えたくなる場の設定 子供たちが「あれっ?」「えっ?」という疑問や「おもしろそう」「自分も試してみたい」という意欲が生まれてくるような問題づくり・提示の工夫を行う。</p> <p>②子供たちの考えをつなぐ働きかけ 今までの学習や友達の考えとつないだりしながら、自分の考えを構築していくことができるように、「自分の考えと友達の考えの関連性が見えてきたり、友だちの考えをもとにして、新たな見方・考え方が生まれたりするコミュニケーション活動」を仕組む。</p>	<p>1 単元名「分数のかけ算・わり算」</p> <p>2 ねらい 乗数や除数が整数である場合の分数の乗法及び除法の意味について理解し、計算の仕方を理解する。</p> <p>3 具体的方策 ①問題づくり・提示の工夫 ・身近な場面で課題解決に直接関係のない対象や数値を含んでいる問題を設定する。 →「あれ?」「全部必要な?」などの気持ちをわかせる、必要な条件を整理しながら、課題解決への意欲を高めていく姿を引き出す。 ・提示の際に、一文ずつ提示する。 →緊張感や集中力が生まれるようにする。 ②コミュニケーション活動の工夫 ・自力解決後に自信度を問い、自信度の低い子の意見から発表を始めるようにする。 →子供たちがより関わり合いながら、不明な点を明らかにしていこうとする話し合い活動を目指す。 ・教師が子供の考えをすぐに復唱したり、まとめたりせずに、一人の考えを子供たちに返し、自分の言葉や動作で再生して表現できるような働きかけを行う。 →一人の考えを軸とした子供たちの関わり合いを生み、それぞれの考えをつなげるようにする。</p>

三条	上林小	阿部道子	三条市立上林小学校	国語	2	<p>1 目指す子どもの姿 知らせたいことや想像したことについて、組み立てを考えた文章にまとめたりして、喜んで表現する子ども</p> <p>2 身につけたい力 ・書いたものを読み合い、感想を伝え合うことができる。 ・文章の意味が明確になるように、語句や文のつながりを考えて書くことができる。</p> <p>3 取組の方向性 ・既習内容を生かした導入を工夫して、話作りに興味をもたせる。 ・「誰に伝えるか」相手意識や、「何にまとめるか」(本や紙芝居など)を明確にして、学習意欲を高める。 ・「課題」と「まとめ」「振り返り」をつなげる ・友達と考えを交流させる場の設定 ・学習の流れが分かる板書の工夫</p>	<p>1 単元名 「お話のさくしゃになろう」 11月</p> <p>2 ねらい 絵を見て想像したことから書くことを決め、「初め」「中」「終わり」のまとまりのある短い物語を書くことができる。</p> <p>3 取組の予定 (1)話づくりに興味をもたせる導入 既習の話の題名や作者、登場人物、あらすじなどを想起させるために「お話クイズ大会」を行い、学習意欲を高める。 (2)相手意識をもたせる 作った話を「誰に聞いてもらいたいか」を明確にして、学習意欲を高めていく。 (3)本や紙芝居など「何にまとめるか」を決める (4)「初め」「中」「終わり」の構成を意識させる 既習の話をもとに、「初め」「中」「終わり」があることや「中」で出来事が起きていることに気付かせる。 (5)話のメモを書く 1学期から書いてきた作文メモをもとに、話の「初め」「中」「終わり」の構成 メモを書き、あらすじを考える。 (6)構成メモをもとに、「初め」「中」「終わり」の順に話を書き、最後に題名をつける。 (7)自分で見直したり、友達に読んでもらったりして、正しく書き直す。 (8)書いた話を「本」や「紙芝居」にする。 (9)完成したものを友達と交換し合い、よいところを伝え合う。 (10)「伝えたい相手」に読んで聞かせる。</p>
小千谷	小千谷小	栗木勇	小千谷市立小千谷小学校	算数	4	<p>1 目指す子どもの姿 進んで学習に取り組む意欲をもち、自分の考えを根拠(既習事項や図、式など)を明らかにして説明できる子</p> <p>2 取組の方向性 ・子どもが意欲的に取り組める課題提示の工夫をする。 ・子どもが既習事項や絵、図、式等の根拠をもとに、筋道立てて説明できるようにする。 ・ペア、学級全体など学習形態の工夫をし、子どもが説明する場を保障する。また、他の考えを知ることでより効率的な問題の解き方を知ったり、自分の考えと関連づけて考えられるようにする。 ・ミニホワイトボードなど使い、考え方の違いがはっきり分かる板書を工夫する。</p>	<p>1 実践時期 10月</p> <p>2 単元名 「2けたでわるわり算」</p> <p>3 指導の工夫 ・子どもが「面白そう」「やってみたい」と思う導入を工夫し、子どもの意識を向け、子どもから課題を出させたり、課題を解く必要性を感じさせたりする。 ・計算の仕方を考える際に、ノートに絵や図を書いたり、操作的活動を取り入れたりする。これをもとに、自分で考えて根拠を明らかにし、筋道立てて相手に伝わる説明ができるようにする。 ・他の考え方を聞き、同じように行ったり、自分の考え方と関連付けたり、違いに気付いたりできるようにする。</p>
小千谷	東小千谷小	丸山恵梨	東小千谷市立小千谷小学校	算数	3	<p>【目指す子どもの姿】 ・「どう考えたらいいかな。」「やってみたいな。」などと学ぶ意欲をもって学習に取り組むことができる。 ・既習事項を生かしながら、課題解決に向けて見通しをもって学習に取り組むことができる。 ・自分の考えをもち、仲間の考えに触れることを通して、自分の考えをさらに深めることができる。</p> <p>【取組の方向性】 ・児童の問題意識を触発する課題設定を工夫する。 ・見通しをもって課題に取り組めるように、単元の流れや既習事項を確認し、毎時間ごとにめあての振り返りを行う。 ・互いの考えを伝え合う場や、自分の言葉で授業のまとめを書く時間を確保する。</p>	<p>1 単元名 「円と球」 10月</p> <p>2 ねらい 図形についての観察や構成などの活動を通して、図形を構成する要素に着目し、図形について理解できるようにする。円、球について知る。また、それらの中心、半径、直径について知る。</p> <p>3 具体的方策 ・日常生活に即した課題で、多様な考えが生まれるようなものを提示する。 ・単元を通して学習の流れが分かるような学習カードを活用する。また、そのカードで毎時間ごとにめあての自己評価ができるようにする。 ・仲間同士考えを聞き合う活動を通して、情報の共有、関連づけ、比較を行えるようにする。まとめを書く際には、キーワードとなる言葉を提示し、児童が自分なりのまとめを書くことができるようにする。</p>
小千谷	和泉小	大森千鶴	小千谷市立和泉小学校	算数	6	<p>【目指す子どもの姿】 ・「できそうだ。」「やってみたい。」など、学習に対する意欲をもち、既習事項を生かしたり、友達の考えを聞いたりし、自分の力で考えようとする子。 ・図、式、言葉などで積極的に自分の考えを表現する子。</p> <p>【取組の方向性】 ・子どもの思いや疑問を大事にし、授業のねらいに子どもを引き寄せるような課題設定を工夫する。 ・子どものつまずきや考えの相違点などをよく見取り、考えさせたいポイントを焦点化し、授業の最後までに全員が自力解決できるようにする。</p>	<p>1 単元名 「比とその応用」 10月～11月頃</p> <p>2 ねらい 比について理解できるようにする</p> <p>3 具体的方策 ・割合の考え方を想起したり前時までの問題との違いを考えたりするなかで、子どもと本時のめあてを共有し、意欲を高める。 ・前時までの学習を掲示したり、本時の中で復習したりし、想起しやすいようにする。 ・子ども同士の考えを交流し、よりよい考えを見つけていけるようにする。</p>
小千谷	東山小	櫻井賢司	東山小千谷市立小千谷小学校	算数	5・6年	<p>平成27年度、当校の研究主題である、「思考を深める子どもの育成<3年次>」～ICTで「焦点化」「視覚化」「共有化」を図る授業づくり～に沿って、取組を進めていく。 ○「身に付けさせたい力」を明確にし、課題を「焦点化」する。 ○ICTを用いて、児童が課題をより把握しやすくなるような、「視覚化」教材を用いて、課題提示を行う。 ○仲間との意見交流の場面において、ICTを活用して考えを伝え合い、「共有化」する。</p>	<p>11月17日(火)に、中学校区計画訪問で授業を公開し、協議してもらう。</p>

加茂	須田小	廣嶋和人	加茂市立須田小学校	国語	4年	「自分の考えをもち、進んで意見を交流して学びを深める子」を目指し、「学習課題の成立」「ノートの活用」「児童の考えを整理した板書」に視点を当てた授業展開を行う。	11月9日(月)校内授業研
十日町・中魚	東小	桑原洋文	十日町市立東小学校	算数	2	校内研修テーマ「かかわり合いながら自ら学ぶ子を育てる授業づくり～学びを生かし、根拠を明確にして話し合う活動を通して～」 「学びを生かし、根拠を明確にして話し合うために、以下の視点で研究を進める。 ①「学びを生かす」→「根拠を明確にする」→「話し合う」の学習サイクル②見通しをもち、順序立てて考えさせる言葉や算数用語の指導③子どもたち同士の課題解決を促すために、協同的な学習を取り入れる。	6月22日 中学校区計画訪問 授業公開 9月 校内研修指導案検討 10月 校内授業公開 算数「かけ算」
見附	見附小	草分智昭	見附市立見附小学校	社会科	5年	<テーマ>「子どもの問いが連続する社会科授業」 <目指す子どもの姿>「社会事象について、観察・調査したり表現したりしながら、事象の意味や特色をとらえようと、追求し続ける子ども」 <取り組みの方向性> ①子どもに知りたいという欲求をもたせ、子どもの問いが連続して追求し続けることのできる単元構成を工夫する。 ②子どもの問いが連続する授業の基盤となる「学び合う学級集団作り」や「学び方の指導」を工夫する。 ③ICT機器を「学び合い」「伝え合い」場面で有効に活用する授業方法を工夫する。	6月・「水産業の盛んな地域」(校内グループ研修として) 11月・「暮らしをささえる情報」(個人研修として)
燕・西蒲	島上小	阿部 聡子	燕市立島上小学校	国語	2年	1 テーマ 「自分の思いや考えを進んで表現し、かかわり伝え合う児童」を育成するために国語科「読む力」を高める指導のあり方について授業実践で明らかにする。 2 取組の方向性 「自分の思いや考えを進んで表現し、かかわり、伝え合う」とは、課題に対しての自分の思いや考えを間違いを恐れずに生き生きと表現しようとするをさす。自分の考えをもち、何をどのように考えさせるかを明確にして子どもたちに提示したい。①主体的に楽しく学習に参加するような課題の提示②自分の考えを明確にするための場の設定③効果的なかかわりをさせるための工夫の3つについて研修を深めていきたい。	1 実践時期 10月 2 実践教材 2年国語「お手紙」 3 指導構想 教科書に書いてある言葉や文章を根拠とした自分の意見をもち、友達とかかわり伝え合えるような授業を目指す。 ①課題提示の工夫 児童と学習課題を考えたり、思考ツールを工夫したりし、主体的に楽しく学習に参加できるようにする。 ②自分の考えを明確にするための場の設定 考えと根拠を明確にできるようにカードを工夫する。 ③効果的なかかわりをさせるための工夫 発表の話型を提示し、指名順、ペア・グループ・全体などかかわる場を工夫する。
魚沼	広神東小	大平 智子	魚沼市立広神東小学校	算数	6	○テーマ 「どの子にも分かる・できる授業 ～授業のユニバーサルデザイン化を通して～」 ○内容 Q-Uの分析結果を生かし「どの子にも分かる・できる授業」のための有効な手立てを授業のユニバーサルデザイン化の視点から探る。 ○取り組みの方向性 ・日常的な取組としての学習環境の整備、ノート指導、聴き方・話し方のルール作りなどの実践 ・整理された板書作り、ペアやグループを取り入れた全員参加の学習形態の工夫	1 実践時期 6月下旬～7月上旬 2 実践単元 「小数と分数の計算」 3 ねらい 小数および分数の計算の能力を定着させ、それらを用いる能力を伸ばす。 4 単元で目指す子どもの姿 小数および分数の計算の意味や計算方法について、友だちとのかかわりを通して、見通しをもって考えたり、伝え合ったりできる子ども 5 授業のユニバーサルデザイン化の視点による具現のための手立て ①既習事項との関連を想起させ、考えを作る視点を与える。 ②ペアやグループ活動、発言の繰り返しや問い返し、リレーなどで、全員が参加する場面を作る。
南魚沼	浦佐小	井川 江司	南魚沼市立浦佐小学校	算数科	4	<目指す子どもの姿> ・子どもたちが算数の問題を主体的に考えている。 ・問題からいろいろな解き方を発見したり、友達の式を見てどのように考えたのかを追及したりしている。 ・友達の考えを生かして、類似問題で活用している。 <取組の方向性> ・子どもが考えたいような課題提示をする。 ・多様な考え方が出るような教材を開発する。 ・自分の考えを表現できるように、書く活動を取り入れる。思考力・表現力を高めるために、式、図、グラフなどを生かして、記述問題に取り組みせる。 ・スパイラルを生かした発展学習を行う。	<取組1> 単元名 「式と計算」 実施時期 10月 大まかな実施内容:規則的に並んだ丸の合計数を調べる。どのような式で求めることができるかを考える。 <取組2> 単元名 「面積」 実施時期 11月 大まかな実施内容:複合図形の面積を求める。図形を分けたり、移動させたりしながら、いろいろな解き方を発見する。 <取組3> 単元名 「ともなって変わる量」 実施時期 1月 大まかな実施内容:規則的に並んだ形から「○○が増えると、それに伴って××も増えている。」などを発見していく。 例:マッチ棒の数、周りの長さ、図形の個数など

新潟	葛塚小	高橋 淳	新潟市立葛塚小学校	算数	6年	<p>【目指す子どもの姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童自ら「どうしたいのだろう」という問いから課題設定をつくり、進んで問題解決に取り組む姿。 ・自分の考えを友達に積極的に発信し、自分の考えを修正したり、深めたりする姿。 <p>【取組の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の興味関心のある教材を提示したり、二者択一になる問題を投げ掛けたりする。 ・グループでの話し合いを有効に働かせるために、グループでの話し合いマニュアルを作成したり、明確な話し合いの論点を投げ掛けたりする。 	<p>1 単元名「速さ」10月</p> <p>2 ねらい 1秒当たりにそろえる単位量当たりの考えを用いて、速さを比べるよさに気付くことができる。</p> <p>3 具体的方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題提示 日常生活の場面から問題を教材にし、二者択一になるような問題を提示する。 ・グループでの話し合い 二つの量のうちどちらか一方の量をそろえる考え方のどれが有効かという話し合いの論点を投げ掛け、一つの意見にまとめる話し合いのマニュアルを使い、自分の考えとその根拠をグループで話し合わせる。
新潟	下山小	戸田 道治	新潟市立下山小学校	国語	6学年	<p>1 テーマ 身の回りから課題を見付け、適切な資料を選んで説得力のある文章を書く力を高める指導の工夫</p> <p>2 育てたい「考える力」 (1) 目的や意図に合った引用文、図表、グラフなどを決める力 (2) 選んだ資料(引用文、図表、グラフなど)を活用して、目的や意図に応じた説明文を書く力</p> <p>3 取組の方向性 これまで、自分の意見を述べるときに大切な技能として、次の事柄を学んできた。 ア 事実と意見を区別して書く。 イ 文章を引用する。 ウ 反対の立場の意見なども取り入れて書く。 これらに加え、本単元では写真や図、グラフなどの資料を活用させる。文字を直接引用する技能(イ)と違い、資料から自分の述べたい事柄を自分の言葉で表現する力が必要になる。引用した部分や図表やグラフが目的や意図に合っているか、友達同士意見や感想を伝え合いながら学習を進めるようにする。</p>	<p>1 実践時期 9月</p> <p>2 実践単元・教材 単元「資料を生かして呼びかけよう」</p> <p>3 主な単元構成</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教科書の文章から、資料を活用した文章の良さ、段落構成や文章表現の工夫を具体的に知る。 ② 身の回りから呼びかけたい問題を取り上げ、必要な資料を集める。 ③ 文章表現や資料の活用について、目的や意図を説明し合ったり友達の意見を聞いたりして、より効果的に伝わるよう文章に推敲して完成する。 <p>4 実践の評価 実践で記述した文章に、(1)(2)の「考える力」が表れているかを分析する。</p>
新潟	新津第一小	畑 智	新潟市立新津第一小学校	国語科	3年	<p>【目指す子どもの姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文学的文章の学習において、自分の「読み」を、「解釈」「理由」「根拠」に分けて説明できる子どもを目指す。 <p>【取組の視点・方向性】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「読むこと」領域における指導法の研究を行う。 ②文学的文章の学習を教材として扱う。 ③自分の「読み」を「解釈」「理由」「根拠」に分けて、説明させる。 ④そのための手立てとして、「AorB」の選択式の発問を行う。 ⑤考えを整理し、記述させるための文型を提示し、使わせる。 ⑥考えを交流する場を設定し、自他の考えの共通点や相違点について話し合いを行わせる。 	<p>実践予定①</p> <p>1 実践時期 7月</p> <p>2 教材 「ゆうすげ村の小さな旅館」</p> <p>実践予定②</p> <p>1 実践時期 10月</p> <p>2 教材 「サーカスのライオン」</p>
新潟	巻北小	高橋 美和	新潟市立巻北小学校	国語	2年	<p>1 育てたい「考える力」の捉え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的を明確にもって読むことができる力。 ・文章の中から「すごい」と思う内容を見付けられる力。 ・「すごい」と思ったことを書くことで表現できる力。 <p>2 目指す子どもの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「何のために読むのか」という目的を明確にもち、進んで学習に取り組むことができる子ども。 ・友達によって「すごいな」と思う箇所が違うことを知ること、多様な考え方を認め、読むことの楽しさを感じられる子ども。 <p>3 取組の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元を貫く言語活動を設定し、読みの目的を明確にもたせる。 ・読み取ったことをもとに書く活動に発展させ、自分の「すごい」と思う部分について書き抜いたり、それらについての思いや考えを表現させたりする。 	<p>1 実践時期 10月頃</p> <p>2 単元「動物すごいぞカードを作ろう」 教材「ビーバーの大工事」</p> <p>3 指導方法の工夫の視点</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ゴールイメージの視覚化 この学習において、どんなことができればよいかというイメージや意欲をもたせるために、「動物すごいぞカード」のモデルを提示する。 ②「すごいぞ」というキーワード設定 学習指導要領での「C読むこと(2)②オ」にある「文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと」を受け、自分の意見形成をするときに、「すごい」と思った内容に焦点化して読ませていく。 ③二つの文の対比により、効果的な表現方法に気付かせ、「書く」活動へつなげる 本文にある「すごいぞ」を効果的に表している表現方法に気付かせるため、それらを抜きにした文章を提示し、比較させる。 ④学習のまとめを、「すごいぞカード」に生かす。 毎時間、まとめのあとの振り返りで、「ビーバーすごいぞカード」を書き進めていく。ここでその時間の評価をする(二次)。三次では、自分の選んだ動物で「すごいぞカード」を書いていく。 <p>4 実践の評価 三次で作った「すごいぞカード」の中に、図鑑から見つけた「すごい」と思う内容の記述があるか分析する。</p>

<p>新発田・北蒲</p>	<p>川東小</p>	<p>三部 美和子</p>	<p>新発田市立川東小学校 国語</p>	<p>3年</p> <p>1 テーマ 文章を構成する力を高める指導～「読む」「書く」「話す・聞く」の3領域の関連性を大切にしたい指導の工夫～ 2 目指したい子どもの姿 ・ はじめ・なか・おわりの三部構成を意識して文章を書くことができる。 ・ 自分の考えが明確になるように、段落の役割を意識して書くことができる。 3 取組の方向性 ・ 全領域共通の文章構成表の活用(三部構成・段落の小見出し・段落の役割・段落相互の関係) ・ 「習得」した内容の「活用」を意識させる学習掲示(教室・ノート) ・ 文章構成力についての学習前の実態把握と学習後のふり返りの継続</p>	<p>1 重点単元実施時期 11月 2 単元名・教材 せつめいのくふうについて話し合おう 「食べ物のひみつを教えます」 3 指導方法の工夫 ・ 導入前の文章構成についての実態把握(持ち出し可能な既習事項は何かを自力読みで考える)と学習終了時のふり返り(新たに獲得した知識・技術は何かの記述) ・ 文章構成をより明確につかむための、同じ構成の文章との比較読み ・ 友達と文章を読み合う際に、構成の良さを観点にした交流活動 【それまでの関連単元】 4月 まとまりをとらえて読み、かんそうを話そう 「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」 6月 ざいりょうを集めて、ほうこくする文章を書こう 「気になる記号」</p>
<p>新発田・北蒲</p>	<p>外ヶ輪小</p>	<p>片野 一輝</p>	<p>新発田市立外ヶ輪小学校 算数</p>	<p>6年</p> <p>1 目指す子どもの姿 課題解決をする中で、数学的な見方や考え方を創り出し、仲間とともによりよいものへと高めることができる子 2 「活用」と「課題」の捉え 「活用」とは、発展的な問題に取り組む中で、基礎的・基本的な内容を創り出していくプロセスとする。 「課題」とは、学習のねらいにつながるものであり、問題場面から抽出されたものである。 3 取組の方向性 (1)問題場面と問題提示の工夫 学習課題になかなかとり着かず、解決の時間が不足したり、学習のまとめができなかったりする場合がある。できるだけ早期に学習課題を共通認識し、解決やまとめを充実させることができるようにする。 (2)見方や考え方を獲得する方法の工夫 基礎的・基本的な内容を指導してから発展的な内容に取り組むという流れでは、なかなか活用する力を育てることができない。日々の学習を「活用」という視点により展開することで、活用する力を高めつつ、単元にかかわる見方や考え方を育てることができるようにする。 (3)まとめ活動の充実 課題解決が中心となり、学習内容のまとめが不十分になりがちである。教師によるまとめではなく、仲間とのかかわりから学習した内容、そのプロセスを児童が自分の言葉でまとめることができるようにする。</p>	<p>1 実践時期 10月～11月 2 単元名 比例と反比例 3 ねらい 比例、反比例の意味を知り、その性質やグラフについて理解する。 4 具体的方策 (1)問題場面と問題提示の工夫 児童の身の回りにある題材を用いて問題場面を設定することで、解決したいという想いを高める。また、問題を提示する際は、日常生活と結び付けながら問題場面を把握することで、全員が共通の課題意識をもつことができるようにする。 (2)比例・反比例の見方や考え方を獲得する方法の工夫 課題解決をする中で、比例や反比例という見方や考え方を創り出し、獲得していくことができるようにする。その際、自力解決で導き出した見方や考え方について、仲間と練り上げを行うことでよりよいものへと高め、獲得していくことができるようにする。 (3)まとめ活動の充実 課題解決だけに終始しないように、タイムマネジメントを適切に行い、まとめの時間を保障する。その上で、仲間とのかかわりの中で練り上げた見方や考え方を振り返り、自分の言葉でまとめを進めることができるようにする。</p>
<p>新発田・北蒲</p>	<p>住吉小</p>	<p>渡邊 幸太</p>	<p>新発田市立住吉小学校 理科</p>	<p>4</p> <p>1 テーマ 「科学的な思考力を育む理科指導～知識の積み重ねと「書く」活動を通して～」 2 育てたい力 途切れ途切れになりがちな思考を一連の流れとして、根拠を基に論理的に考えることができる科学的な思考力 3 取り組みの方向性 これまでの理科学習での児童の様子を振り返ると、積極的に実験を行っている姿が見られ、実験は楽しいという児童が多くいた。しかし、楽しいだけで実験が終わってしまい、実験結果や既習知識を活かして問題解決をすることができない児童がいた。これは、既習事項が十分定着しておらず、それを想起して問題解決に活用することができなかったからである。また、問題解決の見通しを十分意識させてこなかったからである。昨年度の実践により、自分の思考を根拠を基に論理的に書くことができる児童が増えた。今年度は、他の単元でも実践できるよう実践を進めたい。 (1)獲得した知識の定着を図るためのサイエンスカード・ホワイトボードの活用 (2)問題解決の過程に沿った書き方ガイドの提示 (3)主体的に、獲得した知識や技能、見方や考え方が活用できる場の設定</p>	<p>1 実施時期 11月～12月頃 2 実践単元 「ものの体積と温度」 3 指導方法の工夫の視点 (1)獲得した知識の定着を図るためにサイエンスカード・ホワイトボードを活用させる。 (2)問題解決の過程に沿った書き方ガイドを使って、根拠をもって考えを書けるようにする。 (3)主体的に、獲得した知識や技能、見方や考え方が活用できる場を設定する。 4 実践の評価 実践で記述した記述を基に、(1)～(3)を分析する。</p>

村上・岩船	村上小	小野理恵	村上市立村上小学校	音楽	5年	<p>1 「考える力」の捉え</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや意図と、音楽の要素や仕組みを結び付けて考え、表現を工夫しようとする力。 課題を解決するための方法を既習内容から選択し、その課題に合った方法にして取り入れる力。 <p>2 取組の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習課題を明確にもち、見通しをもって取り組み、振り返り、次に生かす過程を連続して行っていく。 1学期は教師主体型で知識や経験を増やしていく。2学期以降は、児童が主体的に知識や経験を活用できるようにしたい。 音楽活動と言語活動を関連させ、表現する楽しさを身に付けさせていく。 	<p>1 実践時期 10月～11月頃</p> <p>2 題材名 曲想を味わおう</p> <p>3 ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉の感じや曲想にふさわしい表現を工夫して、思いや意図をもって演奏する。 曲想とその変化を感じ取りながら、楽曲の構造に気を付けて聴く。 <p>4 具体的方策</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習課題を明確にもたせ、見通しをもって取り組むことができるようにする。 試すことにより感じたことを言葉で表現できるように、既習内容の掲示を工夫する。 個で考え実践したことを、グループ、学級全体へと広げていく。 <p>5 評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習課題解決の過程に、「考える力」が表れているかを評価する。
五泉	五泉小	藤井香利	五泉市立五泉小学校	国語	3	<p>1 テーマ</p> <p>「一人一人の考えを深めるために、単元を貫く言語活動を位置付けた指導の工夫」</p> <p>2 取組の方向性</p> <p>文学作品を「読むこと」において、思考力を育成するためには、児童に興味・関心をもたせながら学習意欲を喚起していくことが重要である。そのために、「単元を貫く言語活動」を位置づけ、友達とかかわりながら考えを深める授業を展開していく。</p>	<p>1 実践時期 6月～7月</p> <p>2 実践単元・教材</p> <p>単元名 読んで感じたことをポップにまとめて紹介しよう</p> <p>教材名「もうすぐ雨に」</p> <p>3 具体的方策</p> <p>一単位時間の授業過程を三つの段階(課題と向き合う段階 友達の考えに向き合う段階 自分の考えに向き合う段階)に分ける。この三段階における教師の手立ての有効性を探り、授業改善を図る。</p>
五泉	五泉南小	登條里果	五泉市立五泉南小学校	外国語活動	6年	<p>【テーマ】</p> <p>「自分から進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成を目指して」</p> <p>児童が聞きたい、話したいという思いをもつようにならなければ、進んでコミュニケーションを図ろうとはしない。また、外国語活動に対して積極的になれなかったり、自信をもって活動に臨めなかったりする児童がいるのも事実である。児童が英語でコミュニケーションを図る楽しさを感じながら、自分から進んで聞きたい、話したいと思えるように、以下の取組を実践していく。</p> <p>【取組の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学校につながるようクラスルームイングリッシュを積極的に活用する。日付や曜日、天気などの答え方の定着を図るため、朝の会を活用する。 新しい単語や表現は、活動を工夫しながら繰り返し聞かせたり、言わせたりする。 ペアやグループなど、友達とかかわりながらコミュニケーションをとる活動を多く取り入れる。 活動を通して、伝え合う楽しさを味わうことができるようにする。 コミュニケーション活動に自信をもって臨むことができるような、スモールステップの活動を設定する。 	<p>1 単元名 Lesson8 What do you want to be? 2月</p> <p>2 単元の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> さまざまな職業の言い方に興味をもつ。 積極的に自分の将来に夢について紹介したり、友達の将来の夢を聞き取ったりする。 どのような職業に就きたいかを尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。 <p>3 具体的活動</p> <ol style="list-style-type: none"> さまざまな職業の英語での言い方を知る。activityの活動は、友達とかかわるための学習形態を取り入れ、カード取りゲームやインタビューゲームを行う。 将来就きたい職業について話されていることを聞いて理解する。 将来就きたい職業について尋ねたり答えたりする。 自分の夢を紹介する準備や練習をする。 自分の夢を紹介する。 <p>* 振り返りカードを活用して自己評価をし、学んだことや気付いたことを生かして次時の外国語活動につなげていく。</p>
五泉	村松小	阿部順延	五泉市立村松小学校	算数	4	<p>子どもがかかわり合いながら必要な情報に着目し、自己の選択決定を通して、思考力、判断力、表現力を高める算数指導</p> <p>1. 課題吟味</p> <p>「教え、考えさせる授業」を行っていく。算数では、教師の与える課題から、児童が主体的な問い(めあて)がもてるように、興味関心を高める内容と提示方法を工夫する。課題解決の見通しをもたせるために必要な既習事項の確認を全体で行っていく。</p> <p>2. かかわらせ方</p> <p>かかわるには、まず、自分の考えをもつことを大切にしたい。「ここまではわかるけど、ここからが分からない。」など、課題に対して自分の立ち位置を明確にした上で、ペア、グループ、全体での学習・言語活動を双方向的に構成する。</p> <p>3. 「選択・決定」の位置付け</p> <p>既習事項を基に見通しをもつ場面、友達とペア、グループでの考えの交流の場面、全体での比較検討の場面で、必要な情報を選択して自己決定する場面を位置づける。また、「自分の考えを見直し修正する」場面を複数で位置づけ、終末には根拠のある自分の考えをもたせるようにする。</p> <p>4. 振り返り</p> <p>振り返りの時間を確保する。課題に対しての評価「分かったこと」「よく分からなかったこと」や学習方法の評価「こうすればできる」、「算数の技」など、感想ではなく、振り返りの視点をもって、ノートにまとめさせる。</p>	<p>1 単元名 「面積」 11月</p> <p>2 ねらい</p> <p>面積の公式を活用して、複合図形の面積を工夫して求めることができる。</p> <p>3 具体的方策</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題吟味 長さを伏せたL字型の図形を提示する。図形を横に切り、形の変化の様子を見せ、方法の特徴に着目させる。クラス全体で縦に切る方法、欠けた部分を後からひく方法を子どもの言葉を使った求め方で確認する。 かかわらせ方 教える場面では横に切る方法で面積を求めることをクラス全体で行う。複合図形の面積は、形を変えることで公式を使える見通しをもたせる。考えさせる 場面では、課題解決に向けて必要な情報を得るために、目的をもってペア、グループとかかわらせる。 「選択・決定」の位置付け 複合図形の面積が求められる見通しをもたせた場面で、「どの方法が使いそうか」選択決定させて取り組ませる。友達とかかわりを通して、自分の考えを見直し、修正する場面を設け、根拠のある考えをもたせる。 「振り返り」 学びの過程を重視して、複合図形の面積の求め方の工夫や友達の考え方のよさを記述させる。

阿賀野	分田小	石塚 恵美	阿賀野市立分田小学校	国語	4 学年	<p>国語科における「考えさせる授業」を目指す 〈児童の実態〉 当校の児童は素直で教師から指示された課題にきちんと取り組み、よく努力もする。しかし、その一方では、指示されたことには熱心に取り組むものの、全体的に受け身な態度の児童も目立つ。各教科の診断テストにおいても思考力にやや欠ける結果が見られる。 《学習改善》 こうした受動的な児童の背景には、指導に当たる我々教師に責任がある。学習の見通しや基礎基本の定着に重点を置くあまり、教師の指示が丁寧すぎて児童の思考や判断の妨げとなる傾向にあった。今年度は、知識の定着とともに児童の学習意欲や主体性の向上を土台とした「考えさせる授業」を目指し、思考力・判断力・表現力をバランスよく身に付けさせたい。</p>	<p>《目指す子どもの姿》 テーマ「考えさせる授業を目指して」が求める子どもの姿 (1) 児童自ら考える＝学習意欲の向上・主体的な学びが見られる ① 学習課題に対して興味・関心を示し、主体的に学習に取り組もうとする子 ② 自分の考えを言葉・図・表などを用いて、相手に分かるように表現できる 子 (2) 児童自ら考える＝思考を働かせている ① 学習の振り返りにおいて、考えの深まりや変化を自覚し表現できる子 《学習(授業)改善の観点》 (ア) 単元を貫く学習課題の設定 (イ) 学習課題の工夫 (ウ) 課題解決のための見通し (エ) 児童相互の学び合いの時間の充実 (オ) 学習の振り返り</p>
佐渡	行谷小	星野 翔	佐渡市立行谷小学校	算数	5 年	<p>【目指す子どもの姿】 ・最後まで諦めずに問題に取り組んだり、友達の考えを興味深く聞いたりして主体的に学習する子ども。 ・言葉や図、式などを用いて考えることで、見通しをもち、筋道を立てて表現することができる子ども。</p> <p>【取り組みの方向性】 ・算数的な活動を充実させることで、算数の楽しさに気付かせ、児童が主体的に学習に取り組めるようにする。 ・言葉や絵、図、式、表、グラフなどを用いて問題を整理させたり、自分の考えを表現させたりする。 ・考えを交流させることで考えを深めたり、広げたりすることができるようにする。</p>	<p>1 単元名 「図形の面積」 12月 2 ねらい 平面図形の面積が計算で求められることの理解を深め、様々な図形の面積を求めることができるようにする。 3 具体的方策 ・算数的活動の充実 実際に図形を切ったり折ったりすることで等積変形し、面積の求め方を考えさせる。 ・考えの表現のさせ方 自分が考えた求積方法を言葉や図、式を用いて表現させ、順序よく筋道立てて説明ができるようにする。また、「底辺」や「高さ」、「対角線」など算数の言葉を定着させ、説明の際に活用できるようにする。 ・友達との関わり 自分の考えを説明し、友達の考えを聞くことで、面積の新たな求め方に気付いたり、自分の考えを修正、強化したりできるようにする。</p>
胎内	築地小	岩崎 太樹	胎内市立築地小学校	理科	5	<p>1 目指す子どもの姿 学んだことを、相手に分かりやすく説明しようとする活動を通して、電磁石の性質やはたらきについての理解を深め、学んだことを活用しようとする子ども。 2 取組の方向性 学んだことを、他者に分かりやすく説明する活動を充実させる。これによって、理解が十分なところや不十分なところを振り返ったり、実験の結果について図などを活用し、説明の仕方を工夫したりすることができる。と考える。</p> <p>参考文献 森田和良:「科学的読解力を育てる説明活動のレポート」、学事出版、2006</p>	<p>1 実践時期 11月～12月 2 実践単元 電流のはたらき 3 指導方法の工夫の視点 説明をする相手を設定し、他者意識をもたせる。他者に対する説明では、可能な限り省略のない説明が必要とされる。また、不十分な説明をした場合は説明の適否がはっきりするため、適切な説明にしようとする態度が期待できる。 本単元では、他者に分かりやすく説明するためには、どのような工夫をすればよいかを友達同士で検討し合える場を設定する。関わり合う説明活動を設定することで、電磁石の性質についての理解を深め、活用可能な知識を身に付けることを単元の柱とする。</p>
東蒲	日出谷小	小林 健	阿賀町立日出谷小学校	算数	6 年	<p>【目指す子どもの姿】 ・自分の考えを分かりやすく表現し、多様な考えにふれながら、自分の考えの確かさを実感し、よりよい考えへと高めていく姿。</p> <p>【取組の方向性】 ・解決の見通しがもてる課題を提示し、交流する必要感を感じられるように考えの交流の場を工夫する。</p>	<p>1 単元名 「比とその応用」 11月 2 ねらい 比について理解できるようにする。 3 具体的方策 ・学習課題の工夫 前時とのつながりや繰り返しがあがり、解決の見通しがもてる課題を設定する。 ・考えの交流の場づくりの工夫 具体的な操作をしながら説明させたり、黒板を使って絵や図を指し示して説明させたりする。</p>